白馬村図書館等複合施設基本計画
概要版

令和２年３月
白馬村役場 総務課

１．背景と目的

現在の白馬村図書館は、旧長野地方法務局大町支局白馬出張所の限られたスペースでサービスを提供しており、以前から新たな図書館を望む住民の声が上がっていました。

今後の人口推移や財政状況を踏まえ、将来にわたって教育と文化の発展に寄与できる図書館機能に加えて、現在不足している施設・サービス等を複合的に備えた施設として検討することとしました。

白馬村では第５次総合計画において「白馬の豊かさとは何かー多様であることから交流し学びあい成長する村ー」を基本理念に掲げ、幅広い年代において住民が主体的に学び続けることで、「一人ひとりが成長し活躍できる村」を目指しています。

新たな図書館等複合施設については、村の基本理念を具現化する拠点となることを目指して、平成30年度に、「白馬村図書館等複合施設基本構想」を策定しました。

本基本計画においては、昨年度策定した基本構想を軸に、土地の選定、具体的な導入機能の検討、官民連携手法導入の可能性調査等を行い、白馬村の新たな図書館等複合施設の実現に向けて、より具体的に方針及び計画をまとめたものとして策定します。

２．基本構想の概要

平成30年度に策定した「白馬村図書館等複合施設基本構想」の概要を振り返りました。

基本構想策定に向けた取組み

①住民アンケート
②住民ヒアリング
③住民ワークショップ
④白馬村図書館施設検討委員会
⑤庁内検討
⑥有識者会議

「①住民アンケート」の実施結果（アンケート結果から分かったこと）

〇白馬村の魅力は、豊かな自然と多様で温かい人々が魅力！
〇子どもの遊び場や芸術・文化も含めて雨天時に楽しめることがない！
〇誰もが気軽に立ち寄れて学びや寛ぎ・安らぎが得られる図書館が欲しい！
〇子育て支援施設や芸術・文化施設の複合化にして欲しい！
〇多様な人がつながり協働する施設、夜間も利用できる施設、次世代への負担を和らげる施設が欲しい！

「②住民ヒアリング」の実施結果

現状に対しての主な意見として「居場所がない」というものが多くありました。また、建設場所については、人が集いやすいような駅や役場の周辺を望む声が多くありました。なお、「白馬村の特徴を活かした活動をする施設が少ない」との意見も多く、それらのほとんどの意見が、新たな図書館等複合施設に期待されるものでした。

「③住民ワークショップ」で議論された欲しい機能

〇「交流の場」としての機能
〇教育・生涯学習としての機能
〇芸術・文化を活用した観光施設としての機能
〇医療・健康に関する機能

「④白馬村図書館施設検討委員会」の実施結果

図書館施設検討委員会では、「村民が望む図書館像とは何か」ということから検討をはじめ、「白馬らしさが感じられる図書館」について議論を重ねて、平成30年10月に「新しい図書館の施設及びサービスに関する報告書」をまとめました。

「⑤庁内検討」の実施結果

「白馬村公共施設等総合管理計画」を基に、既存の公共施設の耐用年数や老朽度、図書館との親和性、村の政策等を総合的に検討した結果、子育て支援ルームと、白馬北小学校放課後児童クラブを複合化の候補としました。

「⑥有識者会議」の実施結果

村内外、国内外から訪れた人々が集い、出会うことのできる「交流型」の施設とすること、そして、そこでアートや音楽に触れたり、中高生などの若者も居場所として過ごしたり、白馬村の情報を充実させることで、長く過ごせる「滞在型」の施設とすることの重要性が議論されました。

これらの取り組みを踏まえて、基本構想では、新たな図書館等複合施設のコンセプトを定めました！

「多様な創造性と出会い、豊かな未来へ誘う道しるべ」

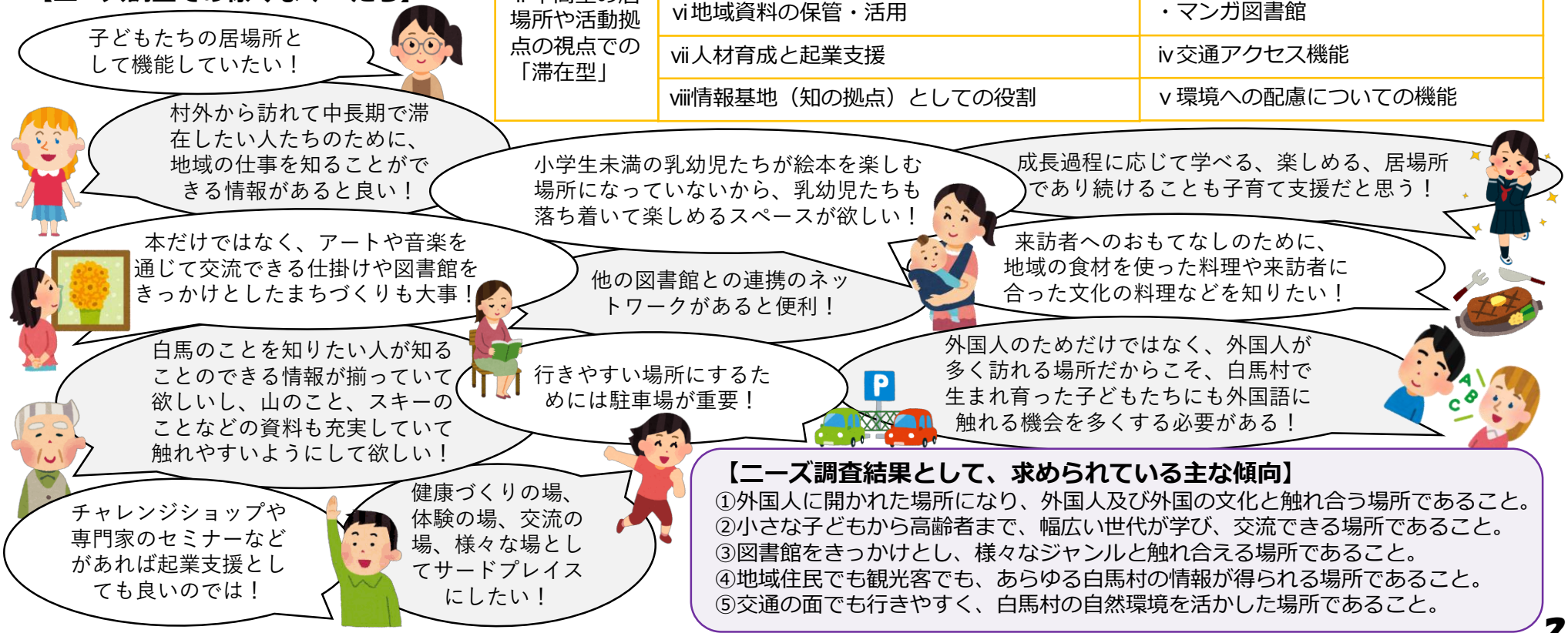
3．基本計画に向けた調査・検討（調査①）

Ⅰ．ニーズ調査

機能の方向性を踏まえたニーズ調査としては、基本構想でまとめた「２つの柱」の視点を重視しながら、「８つのサービス」と「５つの機能連携」に繋げていくことを想定して、図書館関係者、子育て世代、子育て支援関係者、有識者（図書館・ホール・マンガ・アート・子育て等）にヒアリング調査を実施しました。

２つの柱	８つのサービス	５つの機能連携
ⅰ音楽やアートによる交流の視点での「交流型」	ⅰ「地域の仕事を知る」事業展開	ⅰ子育て支援施設機能
	ⅱ多世代・多言語の新聞・雑誌等のサービス	ⅱ健康・医療機能 ・健康相談等 ・他の行政サービスとの連携 ・医療健康情報サービス
	ⅲ子育て支援としての図書館（子ども図書室）	
	ⅳネットワークシステムの活用	
ⅱ中高生の居場所や活動拠点の視点での「滞在型」	ⅴ地域住民が世代を超えて学ぶ場	ⅲ交流を生み魅力を高めるための機能 ・アートスペース ・マンガ図書館
	ⅵ地域資料の保管・活用	
	ⅶ人材育成と起業支援	ⅳ交通アクセス機能
	ⅷ情報基地（知の拠点）としての役割	ⅴ環境への配慮についての機能

【ニーズ調査での様々な“声”たち】



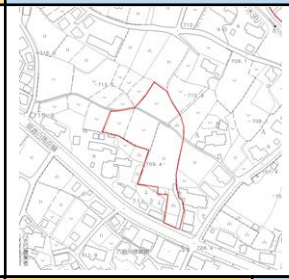
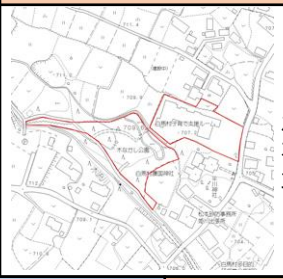
【ニーズ調査結果として、求められている主な傾向】

①外国人に開かれた場所になり、外国人及び外国の文化と触れ合う場所であること。
②小さな子どもから高齢者まで、幅広い世代が学び、交流できる場所であること。
③図書館をきっかけとし、様々なジャンルと触れ合える場所であること。
④地域住民でも観光客でも、あらゆる白馬村の情報が得られる場所であること。
⑤交通の面でも行きやすく、白馬村の自然環境を活かした場所であること。

3．基本計画に向けた調査・検討（調査②）

2．建設候補地比較調査

本事業の建設候補地としては、基本構想段階での検討委員会で出された意見・候補地を含め、次のA～Dの土地を候補地とし、検討しました。また、これらの候補地について、主に、①立地と利便性・周辺環境、②面積と形状、③用地手続きの難易度、④建設における課題、⑤官民連携に関する事業者の利点、⑥主要地からの距離、の６つの視点で比較検討し、「◎＝５点、○＝３点、△＝１点」と配点し、評価結果を整理しました。結果として、A候補地とD候補地で、より具体的な検討に進むことにしました。

A候補地 （Aコープ白馬店南）	B候補地 （六十刈体育館北側圃場）	C候補地 （白馬村子育て支援ルーム）	D候補地 （JR白馬駅前）
			

視点	A候補地	B候補地	C候補地	D候補地
①立地と利便性・周辺環境	◎：立地も利便性も良い。	△：奥まっている。	△：他の拠点と距離がある。	◎：立地も利便性も良い。
②面積と形状	○：他施設と要調整。	△：面積はあるが形状複雑。	△：面積はあるが形状複雑。	△：面積も形状も交渉次第。
③用地手続きの難易度	△：民地のため交渉と買収必要。	△：民地のため交渉と買収必要。	◎：村有地で購入費と交渉不要。	△：JR東日本との交渉次第。
④建設における課題	△：隣接する施設と要調整。	△：形状でゾーニングが難しい。	△：形状でゾーニングが難しい。	△：駅舎や周辺施設と要調整。
⑤官民連携に関する事業者の利点	○：官民連携可能、魅力度低め。	△：魅力的ではない。	△：魅力的ではない。	◎：駅と一体事業で魅力的。
⑥主要地からの距離	○：主要道路から近い。	△：全体的にA候補地より離れる。	△：主要道路から遠い。	○：主要道路や小中学校近い。
①～⑥合計点	16	6	10	16

3．現図書館の課題調査

新たな図書館等複合施設の検討にあたり、書架・家具・サイン・デザイン等における現状を調査し、整理しました。

【書架について】
■**課題**：書架の数が足りない／書架の安定が悪い／災害時の通路確保ができていない
□**検討**：将来の蔵書数を見込んだ規模の設計／安全面を考慮して配置

【机・椅子について】
■**課題**：机も椅子も少ない／リラックスできない／資料を広げて調べられない
□**検討**：図書館の機能を果たし利用者が落ち着いて過ごせる数を配置

【その他家具について】
■**課題**：カウンターも狭く業務非効率
□**検討**：業務を円滑に行える家具を配置

【サインについて】
■**課題**：サイン自体分かりにくい／外国人や多世代対応になっていない
□**検討**：国内外の利用者に親切なサイン

【ユニバーサルデザインについて】
■**課題**：ベビーカーや車椅子で利用し難い
□**検討**：バリアフリーが充実した設計

【IoT及びICTについて】
■**課題**：対応できていない
□**検討**：システム導入（新たなものも含む）

上記の状況を踏まえて、「4．基本計画」で今後の方向性をまとめています！

3．基本計画に向けた検討（検討①）

4．有識者との検討

昨年度の基本構想策定に向けた有識者会議に参加された有識者を対象としたヒアリング調査と、同じ構成での有識者会議を実施しました。ヒアリング調査の段階で意向を整理し、候補地の比較検討にも反映させています。その上で、有識者会議の場で議論しました。

各分野の見解は次のようになりました。

図書館
図書館をつくる視点ではAまたはD候補地が良く、住民目線ではA候補地、観光目線ではD候補地。

子育て支援
白馬駅ならば、駅を活かしたおもちゃ美術館など可能性があり、子育て支援企画が広がるため魅力的な印象。

マンガ
A候補地であれば図書館の中にマンガ館、B・C候補地であればマンガ館単体のテーマパーク化、D候補地であればピロティ空間を生かしたマンガコーナーのように、場所によって考え方が変わる。

ホール
駅にホールがあるということは、出かけていく率が高くなるし、村外からも訪れやすいが、駐車場の確保が重要。

アート
A候補地は公共施設としては悪くないが、D候補地であれば、アートの拠点として機能させることも可能性がある。

地域
駅は魅力的だが、観光客の利便性に寄ってしまわないようにすること、駅の場合は駐車場をどこに確保するのかという問題をクリアするために東側の活用も検討する必要がある。

傾向としては、住民の利便性重視であればA候補地、観光客の利便性や交流・まちづくりの観点からするとD候補地が魅力的だという見解が揃いました。

5．官民連携手法導入の検討

官民連携手法とは、従来、国や地方公共団体等が自ら行ってきた社会資本の整備や公共サービスの提供について、民間の資金やノウハウを活用して事業を行う手法のことです。従来手法と比べて、官民連携手法を導入することによる期待できる点や懸念すべき点がどのようなものなのかを整理すると、次のようなことが挙げられます。下記の期待できる点及び懸念すべき点についても十分検討した上で、白馬村に適した事業設定と事業スキームの構築をしていくことが重要です。

期待できる点	・包括発注による効果、民間の資金調達等の効果によって、財政負担の軽減に繋がる。 ・長期的な契約行為のため、施設の維持管理及び運営面において、効率的かつ適切なメンテナンスが実行される結果、ＬＣＣ（Life Cycle Cost）の削減効果が期待できる。 ・民間事業者の市場分析により、社会変化に適切な対応がし易く、公共サービスへの満足度が高くなる可能性がある。 ・施設全体を民間事業者に任せることになるため、事業者は運営等業務に専念できることから、施設及びサービスの質の維持が期待できる。
懸念すべき点	・民間事業者にとって長期的に続けられる魅力的な事業となっているかどうかという点に留意することと、可能な限り地元事業者が活躍できる体制を構築できることが望ましい。 ・長期契約のため、債務負担行為の議決を得る必要があり、内部合意をしっかりと取っていくことが必要。

上記の期待できる点及び懸念すべき点についても十分検討した上で、白馬村に適した事業設定と事業スキームの構築をしていくことが重要です。

その他にも色々取組みました！

白馬村役場職員を対象に官民連携手法に関する勉強会を実施し、本事業に向けて職員の関心と理解を高めました。

本事業の参考となる国内の図書館整備事例を調べて整理しました。

官民連携事業を想定した場合の駅関係者や図書館運営事業者へのヒアリング調査を行い、今後の検討の参考になる意見を整理しました。

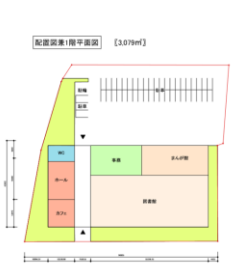
3．基本計画に向けた検討（検討②）

6．建設候補地比較検討

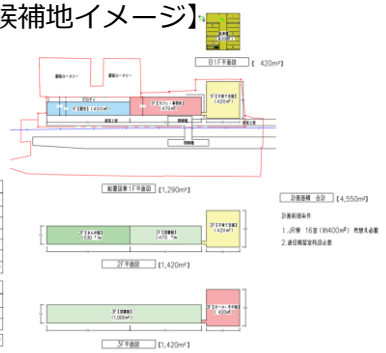
建設候補地比較調査を踏まえて、A候補地とD候補地でさらに検討するということにしたため、具体的に必要面積から当てはめた簡易イメージ図面を作成するなどして、比較調査時の評価視点①～⑥に加えた新たな⑦～⑩の視点で比較検討しました。

結果、次のとおりの評価となり、最優先候補地として、D候補地である「JR白馬駅」を選定しています。

【A候補地イメージ】



【D候補地イメージ】



※概要版用に縮小しているため、詳細は本編をご覧ください。

視点	A候補地	D候補地
⑦観光の視点による利点	○：駅と比較すると観光客は少ない。	◎：まちの玄関口としては最適。
⑧住民の視点による利点	◎：役場やスーパーなどがあり便利。	○：駅利用者や駅周辺住民の期待は高い。
⑨官民連携の魅力	△：事業展開の幅や独立採算事業の可能性が低い。	◎：民間ビジネスの可能性が広がる。
⑩駐車場確保	○：スーパーの駐車場と共用なら確保可能。	△：駅隣接だと足りなく、上手な近隣活用が必要。
①～⑥合計点	16	16
⑦～⑩合計点	12	14
①～⑩合計点	28	30

4．基本計画（具体的な方向性）

新たな図書館等複合施設の整備については、図書館機能、子育て支援機能を核としつつ、基本構想で掲げたコンセプトのとおり、「多様な創造性と出会う」ためのサービス内容も充実させた「交流型」かつ「滞在型」の施設を整備することで、新施設が「豊かな未来へ誘う道しるべ」となることを目指します。

８つのサービスと５つの機能連携から展開させた方向性は次のとおりです。

分類		具体的な方向性（主な要点を一部抜粋）
８つのサービス	ⅰ「地域の仕事を知る」事業展開	村民が地域のことを知るだけでなく、白馬村を訪れる人たちの学びの場にもします。
	ⅱ多世代・多言語の新聞・雑誌等のサービス	白馬村に訪れる外国人が、白馬村や日本のことを知るために読むことができる資料を用意します。
	ⅲ子育て支援としての図書館（子ども図書室）	乳幼児が落ち着いて本を楽しめる環境や保護者もゆったり楽しめる空間を整備します。
	ⅳネットワークシステムの活用	学校図書や地域拠点との連携を図り、整備地から離れた住民もサービスと繋がるネットワークを構築します。
	ⅴ地域住民が世代を超えて学ぶ場	新たな施設での新たな出会いが生まれることで、学びや交流を深めていくことを目指します。
	ⅵ地域資料の保管・活用	白馬にちなんだ山岳や自然、オリンピック、スキーなどについて知ることができるようにします。
	ⅶ人材育成と起業支援	自分の「やってみたい」何かを実践できる、あるいはその実践を応援できる場にします。
	ⅷ情報基地（知の拠点）としての役割	多世代かつ村内外の人たちの欲しい情報が提供できる拠点を目指し、まちづくりに繋がることを目指します。
５つの機能連携	ⅰ子育て支援施設機能	一体整備を活かし、サービスと空間の連携が取れた場をつくり、様々な親子企画を提供する場にします。
	ⅱ健康・医療機能	病気・健康・スポーツの知識や情報を集め、既成概念に捉われない体験・セミナー企画を実施します。
	ⅲ交流を生み魅力を高めるための機能	アートの体験や企画を可能にすること、マンガを上手に活用した空間をつくること、地域活動から上質な演奏まで対応したホールを整備することで交流に繋げます。
	ⅳ交通アクセス機能	今後発展していくモビリティを視野に入れて利便性を向上させること、駐車場を十分確保することを検討します。
	ⅴ環境への配慮についての機能	白馬の美しい自然環境と景観を維持できるようにし、環境に配慮した素材やエネルギーも視野に入れます。

4．基本計画（施設規模と機能の詳細）

施設規模

施設規模については、基本的に次の規模をベースに具体的に検討していきます。

機能	想定面積		
図書館	1,500㎡程度	一般書 地域・行政資料 青少年 児童書 ブラウジング AV・インターネット 学習室 バックヤード	350㎡程度 150㎡程度 40㎡程度 180㎡程度 30㎡程度 70㎡程度 180㎡程度 500㎡程度
子育て支援	800㎡程度		
ホール	250㎡程度		
マンガ	500㎡以内		
カフェ	150㎡程度		
その他	500㎡程度		
合計	3,700㎡以内		

上記の施設規模に加えて、駐車場については、常時約50台分の駐車が可能になるよう、周辺の土地の活用も含めて検討していきます。同時に、ホールでの催しやその他イベント開催時に連携可能な駐車場用地も視野に入れて検討します。

これらを踏まえて、詳細の数字については、関係者との協議の上で、具体的に確定することとします。

機能の詳細

図書館機能

✦「書架」「机・椅子」「その他家具」「サイン」「ユニバーサルデザイン」「IoT・ICT」に関する計画を定めました。
✦「白馬村資料収集基本方針（案）」として、①～⑩を定めました。
✦アーカイブ機能の方針を定めました。
✦運営については、図書館サービスを適切に担える司書資格を有するスタッフと、その他充実したサービスの提供のための司書以外のスキルを持ったスタッフがいることとしました。

マンガ

✦マンガ館としてではなく、ピロティ空間やカフェスペース等を有効活用する方向性でマンガを活用します。
✦若者に向けた学習マンガのコーナーや外国人に日本文化を伝えるマンガ等を選び、滞在と交流に繋げます。

子育て支援

✦次の３つの機能を核としました。
①子育て支援センター機能（活動スペース・遊戯室・相談室含む）
☞活動スペースと遊戯室は広々とした明るい空間で、一体的な部屋として整備。相談室は20㎡×２室を想定。
②各種教室・児童館
☞児童館と保育室を一体的なスペースとして、仕切り等が可能な多目的室として整備。120㎡を想定。
③屋内型広場
☞シンボルとなる大型遊具を設置し、天候に左右されずに年間通して遊べる場の創出。
✦その他、食育のための調理室機能や屋外広場についても検討していきます。

カフェ

✦小さな子どもを連れて訪れ、遊ばせながら保護者がコーヒーやお茶を楽しめる場所とします。

ホール

✦200席程度で整備することとしました。
✦村民の活動発表や親子企画にも活用できることと、上質な音楽演奏などが楽しめることが両立するようなホールを目指します。

4．基本計画（今後の進め方と課題）

今後の課題

今後の課題とそのための取組みとして、次の内容が挙げられます。

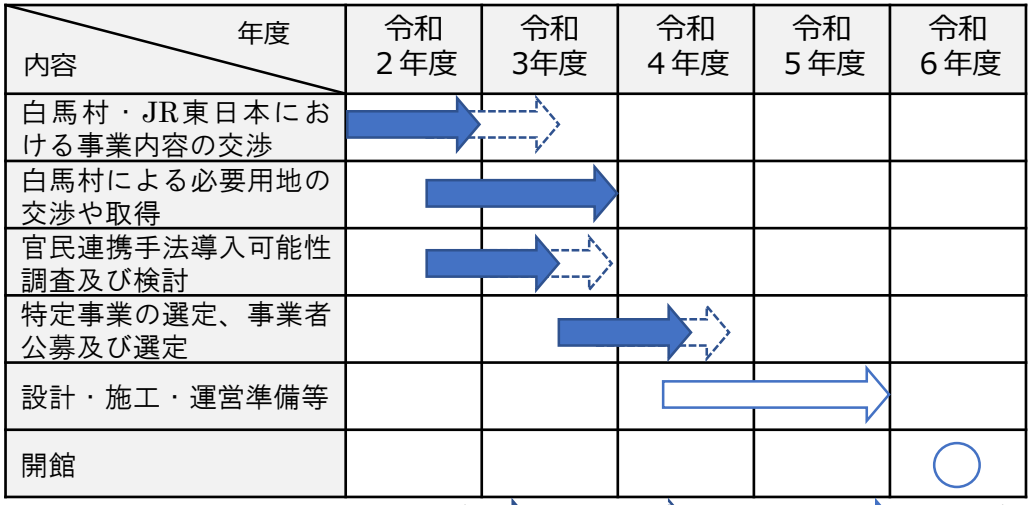
課題	解決のための取組み
①JR白馬駅で事業を進めることを確定するために、条件交渉を成立させる必要がある。	令和２年度中に定例協議を重ねながら白馬村とJR東日本との条件整理及び交渉を進める。
②駐車場の確保が可能かどうか、近隣の用地交渉等が必要である。	駅周辺の土地の調査と必要に応じた用地交渉、駐車場整備にかかる費用計算等をする。
③観光目線のみでなく、住民目線を重視した事業内容及び事業範囲、サービスの質を検討する必要がある。	観光目線のメリットを踏まえたサービス検討もしつつ、公共事業としての事業内容等について、サービス水準となるものを具体的に整理する。
④本事業における官民連携事業としての民間事業者の参画意欲を調べる必要がある。	マーケットサウンディング調査として、検討する機能に応じた民間事業者へのヒアリング調査を実施する。
⑤国の交付金等を活用したい場合、どの交付金が活用できる可能性があるのかを調査しておく必要がある。	図書館整備のみに対する交付金が少ないため、国土交通省の社会資本整備総合交付金として申請することなどが想定されますが、民間事業との住み分けや社会本整備としての位置付けを整理する。
⑥上記①～⑤の調査及び検討を踏まえた上で、事業の実施地として最終確定をし、官民連携手法導入の可否も判断する必要がある。	令和２年度中に、事業の内容及び手法を確定する方向性で進める。

上記の他に、JR白馬駅の東側エリアの活用によって、駐車場の確保だけでなく、屋外広場の検討と合わせてスポーツの場づくりやアートの場づくりまでも視野に入れて検討していきたいため、必要な調査や交渉、協議等を進めていきます。

今後のスケジュール

本基本計画を踏まえて、新たな図書館等複合施設が交流センター的な役割を担い、地域創生の発展事業として、JR東日本と協議・協力しながら県や国を巻き込んで財源確保に当たるようにしていく取り組みが重要となっていきます。

令和２年度以降のスケジュールは、次のように想定しています。



（：予定/：予備期間/：理想）

上記のスケジュールは、JR東日本との交渉内容によって候補地が変更となる可能性と、官民連携手法の導入可能性調査の内容に応じて、事業手法の検討に時間を要する可能性もあるため、それぞれの工程がずれ、開館が令和７年度になる可能性はあります。それらの可能性も含めて、下記の工程を進めながら、本事業に相応しい要件を整理し、望ましい事業のあり方を検討していきます。

白馬村図書館等基本計画に関するお問合せ先

白馬村役場　総務課　政策企画係
〒399-9393　長野県北安曇郡白馬村大字北城7025番地
ＴＥＬ：0261-72-7002
ＦＡＸ：0261-72-7001
電子メール：somu@vill.hakuba.lg.jp